

アンゴラ



観光パスポート



アン ゴラ

**このパスポートがあれば、アンゴラの全州を旅し、
探索することができます。**

このパスポートで、多くの経験、知識、新たな感
動を味わうことができます。

重要：

このパスポートは記載された名前のご本人様のみご利用可能で、譲渡することはできません。

このパスポートは、EXPO 2025 日本大阪・関西万博のアンゴラパビリオンを訪問した後にのみ有効です。

このパスポートは重要な書類ですので、安全な場所に保管して下さい。

アンゴラへようこそ

そして素敵な旅を
お楽しみください。

氏名

年齢

住所

アンゴラパビリオン訪問日

署名

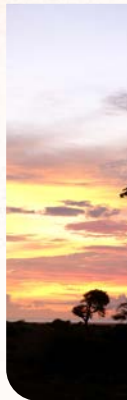
の
地
図

ア
ン
ゴ
ラ

アンゴラ







アンゴラへようこそ

アンゴラはアフリカ南部の西海岸に位置し、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ザンビア共和国、ナミビア共和国と国境を接しています。1975年11月11日までポルトガルの植民地でしたが、独立戦争を経て国家として成立しました。ここ数十年にわたり、民主的な政治制度に基づいた平和と発展の風土が続いており、現在、アンゴラはアフリカ大陸で最も勢いのある将来有望な新興経済国の一つとされています。

南半球の熱帯および亜熱帯に位置し、大西洋に面した海岸線は約1,650kmにわたります。また、周辺の海域はエビやカニなどの甲殻類やタコやイカなどの軟体生物を含む魚介類が非常に豊富です。この国は穏やかな気候と非常に肥沃な土壌をもち、豊かで独特な多様性に富む動植物が育まれています。恵まれた大地がもた



らず豊富な天然資源と鉱物資源により、アンゴラは石油生産（アフリカ第3位）とダイヤモンド採掘（世界第5位）で世界的にも知られる国となっています。

かつて「アフリカのパリ」として知られていたルアンダは、現在では国際的で現代的かつ活気に満ちた首都となり、人口は 500 万人を超え、世界のポルトガル語圏の国々で 3 番目に大きな都市となっています。

アンゴラは行政上21の州に分かれており、それぞれの州が異なった特徴をもちながら、独立した行政を行っています。そして全ての州が国の繁栄と誇りのもと、結束しています。



ベンゴ州 (BENGO)

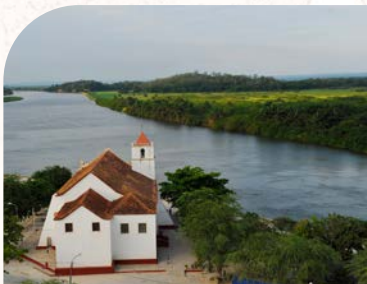
州都はカシトで、行政上、この州はアンブリス、ダンデ、ブラ・アトゥンバ、デンボス、ナンブアンゴンゴ、パンゴ・アルケンの6の郡に分かれています。

気候は基本的に海に近いことに影響を受けています。この州は農業に関して自給自足で、トウモロコシ、キャッサバ、バナナ、サツマイモ、ブドウ、様々な野菜などの作物が主に栽培されています。この地域の産業部門に関しては、コカ・コーラの清涼飲料工場、蜂蜜工場、そして石膏、アスファルト、リン酸塩などの採掘産業によって、現在、ボン・ジェズス地区で、ある程度の相対的な発展が見られます。コーヒーや綿花の生産もある程度行われています。海に近いことから、特にダンデ郡とアンブリス郡における職人漁業活動は、経済的、社会的に大きな影響を及ぼしています。

最も象徴的な文化・レクリエーション活動として、この州では4月24日にカシト市祭り、そして7月26日と27日にイベンドア湖でキアンダ

祭りが開催されます。また、現代的なドトール・アゴスティーニョ・ネト文化センター（カテ内）も国民の文化と伝統を促進する重要な拠点であり、年間を通じて非常に重要なプログラムや活動が行われています。

この州を旅行する際には、ムンボンド特別保護区、ロマ川とウクア川の上に位置するキバシ・ピリ特別森林保護区（面積200km²）、アンブリス禁猟区（北に位置し、面積は3,240km²です）、バラ・ド・ダнде周辺の広大なビーチ（中でもパンバラ・ビーチが有名です）を是非訪れて下さい。その他の興味深い観光名所も是非訪れて下さい。





ベンゲラ州 (BENGUELA)

ベンゲラ州は、アンゴラの沿岸中部地域に位置しています。現在、行政的には、ベンゲラ (Benguela)、ロビト (Lobito)、ボコイオ (Bocoio)、カインバンボ (Caimbambo)、クバル (Cubal)、シونغロイ (Chongoroi)、ガンダ (Ganda)、バイア・ファルタ (Baía Farta)、バロンボ (Balombo)の9つの自治体に分かれています。

州都ベンゲラは、1617年5月17日にセルヴェイラ・ペレイラ (Cerveira Pereira) によって、当時はサン・フィリペ・デ・ベンゲラ (S. Filipe de Benguela) と呼ばれていたバイア・デ・サント・アントニオ (Baía de Santo António) に設置されました。ベンゲラは、ホウオウボク、広い大通り、美しい庭園で知られる魅力的な都市です。またこの州の象徴は、カオタ (Caota)、カオティーニャ (Caotinha)、レスティンガ (Restinga)、バイア・アズル (Baía Azul)、モレナ・ビーチ (Praia Morena) などの、広大で白い砂浜と透き通った水が特徴の美しいビーチです。ウォータースポーツやカイトサーフィン、素潜りを楽しんだり、伝統的な漁を体験したりすることができます。またベンゲラの海岸沿いにある素晴らしいホテルや観光施設では、ゆったりとしたくつろぎのひとときを過ごせるでしょう。ベンゲラ広場やロビトのポンタ・ダ・レスティン

ガ (Ponta da Restinga) では、新鮮な魚介類の数々を味わい、かご細工、彫刻、帽子、革製サンダルなどの地元の手工芸品を手に入れるのも楽しみの一つです。

ベンゲラは早い時期から、経済的にも行政的にも独立しており、国内でも2番目に重要な商業の中心地と考えられています。その発展において、ベンゲラ鉄道 (Caminhos de Ferro de Benguela) とロビト港 (Porto de Lobito) が重要な役割を果たしており、地元経済やアンゴラ中部・南部地域全体の経済に大きく貢献しました。同様に、カトゥンベラ空港 (Aeroporto de Catumbela) とロビト空港 (Aeroporto de Lobito) の二つの主要空港も忘れてはなりません。とくにカトゥンベラ空港は大型航空機の受け入れ可能な空港として設計され、大きな役割を担っています。この州は現在、農業と工業の発展と近代化、そして、天然資源に恵まれた地下層の採掘に力を入れています。

この州を旅する際には、ノッサ・セニョーラ・ド・ポプロ教会 (Igreja da N. Sr^a. do Pópulo)、ノッサ・セニョーラ・ドス・ナヴェガンテス教会 (Ermida de N. Sr^a. dos Navegantes)、ノッサ・セニョーラ・ダ・グラサ教会 (Igreja da N. Sr^a. da Graça)、州政府宮殿 (Palácio do Governo)、ベンゲラ自治体にある国立考古学博物館 (Museu Nacional de Arqueologia)、ロビトにある国立民族学博物館 (Museu de Etnografia)、ポンタ・ド・ソンプレイロ (Ponta do Sombreiro)、シマラヴェラ国立公園 (Parque Nacional da Chimalavera) をはじめとする州内の様々な自然保護区をぜひ訪れて下さい。

5月17日はベンゲラ市の日として祝われています。また、ロビトのカーニバルは非常に有名で、その楽しさとにぎやかさで好評を得ています。





ビエ州 (BIÉ)

ビエ州はアンゴラの中心にあり、州都であるクイト (Cuito)、クニंगा (Kunhinga)、アンドウロ (Andulo)、ニャレア (Nharéa)、シングアル (Chinguar)、チテンボ (Tchitembo)、カタボラ (Katabola)、カマクパ (Kamacupa)、クエンバ (Kuemba) の9つの自治体に分かれています。

ビエ州には、重要な河川や水系の源があります。そのため、この地域には、クワンザ川 (Rio Cuanza) 流域をはじめとし、クバンゴ (Cubango)、ルアンド (Luando)、ブエンバ (Buemba)、クタト (Cutato)、クイヴァ・クケマ (Cuiva Kuquema)、ングンボ (Ngumbo)、クシ (Cuchi)、クニガ (Cunhiga)、クンジェ (Cunje)、クネ (Cune) などの各水系によって形作られた風景が広がっています。アンゴラで最も大きく長いクワンザ川はムンブエ (Mumbue) 近くに水源があります。

地質学的に見ると、この州の地中には、鉄、金、ダイヤモンド、リン鉱石といった金属や鉱物の資源が豊富に存在しています。一方で、この州の経済発展の主力は農業であり、主に、トウモロコシ、キャッサバ、マメ類、サツマイモ、米、野菜、果物、アラビカコーヒー、根菜などの食用作物が生産されています。

この州の郷土工芸品は多様性に富んでいます。特に目を引くのは、草張りの長椅子、かご細工、素焼きの鍋などで、地元の市場で容易に購入することができます。

8月15日から31日までの祭りの期間中、街は入念に飾り立てられます。その一方で、年間を通して、エヴァンバ (Evamba [割礼祭])、アイエレ (Ayele [伝統舞踊 やバトゥケという太鼓、仮面を用いた祭り])、ウチティウォ (Utchitiwo [生誕祭])、ウヴァラ (Uvala [結婚の祝祭]) など、

地域社会の儀式と結びついた様々な祝いの祭事も執り行われています。

州全体に、数多くの見どころや観光スポットがあります。特に、クリスト・レイ (Cristo-Rei [キリスト像])、ウォンゴ滝 (Cataratas do Wongo)、ムトゥンボ滝 (Quedas de Mutumbo)、ムニャンゴ要塞 (Forte de Munhango)、シルヴァ・ポルト要塞 (Forte de Silva Porto)、ニャレア要塞 (Forte de N'haréa)、パレオリティカ洞窟 (Gruta Paleolítica)、ライーニャ・デ・シコンベ洞窟 (Gruta da Rainha de Chicombe) には、ぜひ訪れてみてください。ルアンド自然保護区 (Reserva Natural do Luando) やウンプロ森林保護区 (Reserva Florestal de Umpulo) などの魅力あふれる楽しいエリアを巡ることもお勧めです。





カビンダ州 (CABINDA)

カビンダ州はアンゴラ北西部に位置する最北の州です。同名の州都を持つこの州は、行政上、ベリゼ (Belize)、ブコ・ザウ (Buco-Zau)、カビンダ、カコンゴ (Cacongo) の4つの自治体に分かれています。

カビンダは、石油、金、ダイヤモンド、ウラン、石英、リン鉱石といった天然資源が極めて豊富であることから、ポルトガル人によって「豊かな港」という意味のポルト・リコ (Porto Rico) と名付けられました。今日では、大きな石油プラットフォームで世界的に知られています。また、世界で2番目に大きい森林であるマイオンベ森林 (Floresta do Maiombe) があるのもこの州です。290,000haのマイオンベ森林に



は、良質で商業的価値の高い木材となる希少樹種が豊富に生育しています。この森林は、国内外の消費に向け、年間200,000 m³以上の木材を供給することが可能です。

このように原材料である木材の豊富さが、コクタン、シタン(口

ーズウッド)、ビャクダン、エボニーを使った郷土工芸品を真の芸術作品ともいえる域にまで高めています。またライアヤシやパイナップルの木の葉や繊維など、様々な繊維を使った織物業もカビンダを象徴する存在となっています。これらの芸術作品の中には、地域の思想と結びつき、その思想を内包し象徴していることで非常に高く評価されているものもあります。

この地域には、バカマ (Bakamas) をはじめとする伝統的な文化遺産が色濃く残っています。バカマとは、特にモロ・ド・チゾ (Morro do Tchizo)、シンザジ (Chinzazi)、スソ (Susso)、ポヴォ・グランデ (Povo-Grande)、ンゴイオ (Ngoio) において行われる神秘に包まれた儀式を象徴する集団です。特徴的な仮面をかぶった彼らは、生者の世界と神々および先祖の霊とを繋げる役割を果たしています。これらの地域の伝承によると、バカマは悪霊を追い払い地域社会を守る役割を



担う秘められた存在だと言われています。

州全体において、修復工事と近代化工事が行われています。その中でも、カビンダ総合病院、道路インフラ、海洋インフラ、航空インフラの建設、学校の建設、新しい橋や埠頭の建設、カビンダ港の修復、国際空港の近代化に特に力を入れています。



クアンド州 (CUANDO)

マヴィンガ (Mavinga) を州都とするクアンド州は2024年8月に旧クアンド・クバンゴ州が二州に分かれる形で生まれました。この州はマヴィンガ、クイト・クアナヴァレ (Cuito Cuanavale)、ディリコ (Dirico)、リヴンゴ (Rivungo)、シプンド (Xipundo)、ディマ (Dima)、ルイアナ (Luiana)、ムクソ (Mucusso) とルエンゲ (Luengue) の9つの自治体によって構成されています。

アンゴラの南東部に位置するこの州は、アンゴラの中でも広大、かつ最もルアンダから遠く離れた州です。これらの地理的に隔離された条件により、この土地には先祖伝来のしきたり、習慣、伝統が手つかずのまま受け継がれています。





またこの州には、真の自然の宝庫と呼べる、広大な野生動物保護地区があります。緑あふれる豊かな森林、サバンナ、川、そして農作物を育む大地、鉱物、水資源を含む豊富な自然資源があり、さらに比類のない生物の多様性が、稀に見る美しい景観を作り上げています。この地域は観光資源も豊かで、サファリ、スポーツフィッシング、エコツーリズムなどのアクティビティが楽しめます。

この地域の重要な活動は農業であり、特に穀物や輸出を目的とした綿などの栽培が地域経済を支える原動力となっています。中でも、農産物と畜産はさらなる発展の可能性が高いでしょう。恵まれた地下資源を持つこの州は、ダイヤモンドや銅といった鉱物資源の採掘により、経済・産業の成長が見込まれます。

歴史的側面もこの地域における重要な観光の分野の一つです。特にクイト・クアナヴァレは、アンゴラ内戦における重要な戦いの場であり、この国の自由をかけた抵抗のシンボルでもあります。

このように、壮大で豊かな自然と文化がクアンド州の継続的な経済発展を促しています。観光および交通の基盤となるインフラへの投資や、エコツーリズムの促進、また文化的遺産の評価が、クアンド州を唯一無二の旅の目的地へと変化させています。また自給自足の農業と、自然資源の輸出は環境保全と地域住民の生活の質の向上を約束してくれるでしょう。中期的には、この地域はアンゴラのみならずアフリカ全土における安定し継続した発展のモデルとなる可能性を秘めています。



クバンゴ州 (CUBANGO)

クバンゴ州はアンゴラ南東部に位置する、2024年8月の旧クアンド・クバンゴ州の分割によって生まれたもう一つの州です。メノンゲ (Menongue)、クシ (Cuchi)、カライ (Calai)、ナンコヴァ (Nancova)、クアングアル (Cuangar)、サヴァテ (Savate)、カイウンド (Caiundo)、ロンガ (Longa)、クタト (Cutato)、シングアングジャ (Chinguanja)、マヴェング (Mavengue) の11の自治体で構成され、ザンビア、ボツワナ、ナミビアと国境を接しています。

メノンゲを州都とする、クバンゴ州は豊かな自然資源に恵まれています。クアンド川 (Rio Cuando) とクバンゴ川 (Rio Cubango) をはじめとする数々の重要な河川、灌漑が行われている広大な地域、サバンナや森林、そして、どこまでも広がる平原と、乾燥した風景 — これらの



調和が、エコツーリズムの促進と、環境にやさしい持続可能な収益活動のための、他にはない独自の舞台を提供しています。

肥沃な土壤がもたらす自給自足農業や、乾地農業、また羊や牛の畜産は、地域社会において重要な役割を果たしています。未だ発展の途上にはありますが、森林資源の開発も今後大いなる成長が期待される分野です。

クバンゴ州は文化的にクアンド州と多くの伝統を共有していますが、この地域独自の特徴に基づいた豊かな文化的多様性も持ち合わせています。それぞれが特有の伝統と習慣を守る多様な民族が住むこの州は、アンゴラの歴史やその土地ごとの伝統文化に興味がある観光客を引き寄せ、安定した文化的ツーリズムを発展させる潜在的な力を持っています。

世界屈指の広さを誇る内陸湿地帯、デルタ・ド・オカヴァンゴ (Delta do Okavango) は生物多様性で知られ、絶滅危惧種を含む多種多様な種が生息しています。この湿原を利用した文化的エコツーリズムは地域住民に雇用や収入をもたらし、発展への重要な原動力となるでしょう。このように、この湿地帯の生態系は、クバンゴ州の発展の基盤であり、また、漁業や農業、食用や伝統的医療に使われる植物などの天然資源に依存する地域住民にとっても欠かせない存在です。こうした自然の豊かさは生物の多様性の保護に不可欠です。また湿地は二酸化炭素も含め、炭素成分を蓄積することで地球温暖化などの気候の変動をおさえる重要な役割を担っています。同様に広大な平野と自然資源は農業の発展のための大いなる可能性を提供し、いずれ地域経済と安定した国の食料事情に貢献できるアンゴラの穀物倉庫となるでしょう。





クワンザ・ノルテ州 (CUANZA NORTE)

首都ルアンダから248kmの距離に位置するクワンザ・ノルテ州は、西はベンゴ州、東はマランジェ州、北はウイジェ州、南はクワンザ・スル州と隣接しています。この州の州都はンダラタンド (N'dalatando) で、行政上、カゼンゴ (Cazengo)、ルカラ (Lucala)、アンバカ (Ambaca)、ゴルンゴ・アルト (Golungo Alto)、キクルンゴ (Quiculungo)、ボロンゴンゴ (Bolongongo)、バンガ (Banga)、サンバ・カジュ (Samba Cajú)、ンゴンゲンボ (Ngonguembo)、カンバンベ (Cambambe) の10の自治体に分かれています。

熱帯気候のこの地域は緑の野原と森林が大半を占めています。農業分野では、トウモロコシ、ピーナッツ、アボカド、パイナップル、サツマイモ、マメ類、パパイヤ、デンデヤシ、サイザル麻、ヒマ(トウゴマ)といった農産物の栽培が際立っています。国内での取引においては、綿花とロブスタコーヒーの地元生産が成功の源となっています。この州は観賞用の花であるローザ・デ・ポルセラナ (Rosa de Porcelana) でも知られています。産業面では、州全体にわたり、繊維産業、飲料、食品、履物、タバコ、ミネラルウォーター製造などの分野で発展が見られます。





アンゴラ最大の川であるクワンザ川 (Rio Cuanza) の流れを利用して、カンバンベにアンゴラ初の水力発電ダムが建設されました。このダムはアンゴラ北部の州に電力を供給するだけでなく、ルアンダへの水の供給基盤としての役割も果たしています。4か所の湖とクワンザ川、ルカラ川 (Rio Lucala) で行われている伝統的手法を用いた漁業は、州南部における重要な産業活動です。この地域で獲れた新鮮な魚は、機器や塩を使って干物にしてから市場に出されることが多いです。

この州は、金、ダイヤモンド、鉄、マンガン、大理石、ニッケル、亜鉛、アルミニウム、リン鉱石、石灰石など、多



彩な鉱物資源を有しています。この州の工業地区はカンバンベ自治体にあり、エカビール醸造所 (Cervejeira EKA) や繊維産業、リキュール飲料産業、その他の小規模産業の工場で構成されています。

ンダラタンド市の祭り (Festas da Cidade de N`Dalatando) は7月18日に開催されます。それ以外にも年間を通じて、10の自治体で様々な文化イベントが開催されます。

この地域への旅行では、マサンガノ要塞 (Forte de Massangano)、ゴルゴ・アルト森林保護区 (Reservas Florestais do Golungo Alto)、カクラマ森林保護区 (Reservas Florestais da Caculama)、ボロンゴ森林保護区 (Reservas Florestais de Bolongongo)、キロンボ植物園センター (Centro Horto Botânico de Kilombo)、サンタ・イザベルの泉 (Nascente de Santa Isabel [名水: サンタ・イザベルの水])、ソブランセイロの泉 (Nascente de do Sobranceiro)、ムエベジェ川の滝 (quedas do Rio Muebeje) をぜひ訪ねてみて下さい。



クワンザ・スル州 (CUANZA SUL)

1769年に設立されたクワンザ・スル州は、アンゴラ中西部の沿岸地域に位置します。州都のスンベ (Sumbe) をはじめ、アンボイン (Amboim)、コンダ (Conda)、エボ (Ebo)、カソング (Cassongue)、キバラ (Kibala)、リボロ (Libolo)、ムセンデ (Mussende)、ポルト・アンボイン (Porto Amboim)、キレンダ (Quilenda)、ウコ・セレス (Uko-Seles)、ワク・クング (Waku Kungo) の12の自治体があります。

この州は、特にアンボイン地域とスンベ地域を中心とする農畜産業、そして甲殻類、特にロブスターやエビの流通で有名なポルト・アンボインを筆頭とする漁業分野で高いポテンシャルを見せています。過去10年間で、この地域の経済都市としての地位を確立し、数多くの外国投資を惹きつけてきました。近年は、綿花、ヒマワリ、大豆の栽培を促進するための取り組みが行われています。

またこの州には実用的で装飾的な手工芸品が豊富です。土鍋、小鉢(ボウル)、皿、臼、乳鉢をはじめ、伝統的な楽器のモリング (moringue)、女性がものを運ぶ際に頭に掛けて使うカゴのサンガ (sangas)、刺繍が施された布製品、シーツ、タオル、かご細工、休息用



の敷物などが挙げられます。また、ムズア (muzua) と呼ばれる川用の漁具、動物用の罟、アンゴラに見られるマメ科の水生低木のビンバとバナナの木の前で作られた船などもこの地域の特徴的な手工芸品です。

クワンザ・スルの海岸沿いの住民は、トウモロコシの粉から作られるフンジ (funge)、カクソ (Cacusso) という魚、川または湖のナマズであるキピオコ (Kipioco)、そして乾燥もしくは燻製した魚やムール貝または川ガニを使うスパイシーな煮込み料理のカルルー (Calulú)、パームオイルで調理した豆、野菜料理を主に食べています。

夏には、スンベ市は一変し、国内外の数多くのバンドが参加する音楽祭「フェスティ・スンベ (Festi Sumbe)」が開催されます。この音楽祭は文化的かつ娯楽的なイベントとして大成功を収めています。

スンベ市とポルト・アンボイン市には、環境教育の学校や、国内および南部アフリカ開発共同体 (SADC) の地域レベルで石油産業の中間管理職となる人材を養成する国立石油研究所 (INP) があります。

この州を訪れる際には、海岸沿いの美しい道があるスンベ市、コンダおよびワク・クンゴ自治体の治療効果がある水、ビンガ滝 (Cachoeiras do Binga)、壮大なササ洞窟 (Gruta de Sassa)、ロング川 (Rio Longa) とケヴェ川 (Rio Keve) の河口とそこから続くビーチをぜひご覧になって下さい。きっとこの州に何日間も滞在したいと強く感じられるでしょう。また、リボロ自治体にあるキコンボ砦 (Fortim do Quicombo)、キバラ要塞 (Fortaleza de Quibala)、カルロ要塞 (Fortaleza de Calulo)、リボロ要塞 (fortaleza de Líbolo) も見逃せません。ンダランビリ (Ndalambiri)、キジンジェ (Quijinge) およびキグンバ (Quigunba) の岩刻画、セラ洞窟 (Gruta de Cela)、スンベ洞窟 (Gruta do Sumbe)、アサンゴ洞窟 (Gruta do Assango)、ダウンビ洞窟 (Gruta de Dumbi) も注目のスポットです。





クネネ州 (CUNENE)

オンバジャ (Ombadja) を州都とするこの州は、アンゴラ南部に位置しています。行政的には、クアニャマ(Cuanhama)、クヴェライ (Cuvelai)、ナマクンデ (Namacunde)、オンバジャ (Ombadja)、カアマ (Cahama)、クロカ (Curoca) の6つの自治体に分かれています。



クネネの主な経済活動は畜産業で、特に牛と山羊の飼育が盛んです。集約農業には不向きな土壌のため、トウモロコシ、トウジンビエ、ソルガム、小麦、タバコ、サトウキビなどを天水栽培（雨水を利用する自然農法）で育てる農業スタイルが基本となっています。

木材の伐採は州の経済にとって重要な役割を担っています。現状ではまだ探査および調査の段階にありますが、金や雲母といった鉱物資源の採掘も経済的に期待されています。

1月6日にはマンドゥメ王の日 (Dia do Rei Mandume) が祝われ、7月10日には州都オンジヴァで祭りが開催されます。一年を通じて、割礼の祝いや思春期の祝いといった伝統的な祝い事や通過儀礼が行われる特定の日が設けられています。



この州には美しい景観や自然資源があり、エコツーリズムやネイチャーツーリズムに絶好の条件が揃っています。中でも、雄大なルアカナ滝 (Quedas do Ruacan)、モンテ・ネグロ滝 (Quedas do Monte Negro)、6,600km²におよぶ広大な面積を有するムパ国立公園 (Parque Nacional de Mupa)、エンバラ・グランデ (Embala Grande)、マンドゥメ王の記念碑 (Memorial do Mandume)、アフリカ最大のバオバブの木がひとときわ目を引きま



ウアンボ州 (HUAMBO)

ウアンボ州はアンゴラ中南部地域に位置しています。州都のウアンボをはじめとし、ロンドウインバリ (Londuimbali)、バイルンド (Bailundo)、カシウンゴ (Cachiungo)、シカラ・ショロアンガ (Chicala-Cholohanga)、ウクマ (Ucuma)、エクーニャ (Ecunha)、ムンゴ (Mungo)、チンジェンジェ (Tchindjenje)、ロンゴンジョ (Longonjo)、カアラ (Caála)の11の自治体で構成されています。

この州はアンゴラの穀倉地帯の一つとして知られ、州の経済活動の76%は農業と畜産業が占めています。そのため、農産食品産業を中心とするアンゴラの工業地区の安定に重要な役割を果たしています。現在は農業と畜産業が主な活動となっていますが、経済的にも工業的にも急成長している州です。マンガン、ダイヤモンド、タングステン、鉄、金、銀、銅、放射性鉱物をはじめとする豊かな地下資源が今後採掘されていくでしょう。

近年、インフラや住民の生活全般の質を向上させるための大規模な投資により、この州は重要で魅力あふれる拠点へと変化してきていま



す。ロビトの沿岸地域からコンゴ民主共和国との国境に向かうベンゲラ鉄道 (CFB) がこの州を通っています。この鉄道路線は、物資、サービスなど国内の他の地域との商取引のための重要な輸送手段となっています。さらに、ノヴァ・リスボア工業研究所 (Instituto Industrial da Nova Lisboa) と農業研究所 (Instituto Agrário) がこの地域の発展に大きく貢献してきました。

アンゴラ最高峰の標高2,620mを誇る山、モコ山 (Morro do Moco) はこの州にあり、数多くの川がここで生まれ、沿岸地域や近隣諸国に向かって流れています。

ウアンボの代表的な料理は、野菜、新鮮なキノコまたは乾燥したキノコと川魚を添えたピラン・ド・ミーリョ (pirão de milho) というコーンミール粥です。手工芸品は多種多様で、様々な材料が使用されています。

この地域を散策する際には、クアンド・ダム (Albufeira do Kuando)、カヴونغ森林保護区 (Reserva florestal do Kavongue)、モコ山 (Morro do Moco)、市立人類学博物館 (Museu Antropológico Municipal)、をはじめ、美しい景観を誇るウアンボ市内の9つの庭園、動物園、シアंगा開発センター (Centro de Desenvolvimento da Chianga) を訪れてみてください。また、ンゴヴェ・ダム (Albufeira do N'gove)、ワマ温泉 (Águas Termais do Wama)、レピ (Lépi)、エクーニャのイーリャ・ドス・アモーレス観光複合施設 (Complexo Turístico da Ilha dos Amores)、カアラのペドラス・ド・カヴェ (Pedras do Kave) やその他の興味深いスポットも数多く点在しています。





ウイラ州 (HUÍLA)

ウイラ州はアンゴラ南西部に位置しています。行政的には、キレンゲス (Quilengues)、ルバンゴ (Lubango)、ウンパタ (Humpata)、シビア (Chibia)、ガンボス (Gambos)、キプンゴ (Quipungo)、カルケンベ (Caluquembe)、カコンダ (Caconda)、シコンバ (Chicomba)、マタラ (Matala)、ジャンバ (Jamba)、シピンド (Chipindo)、クヴァンゴ (Kuvango) の13の自治体に分かれています。

州都ルバンゴは、19世紀末にマデイレンセと呼ばれるマデイラ島 (Ilha da Madeira) 出身のポルトガル人たちによって設立されました。また、内陸部で初めて高等教育機関が設置された都市の一つでもあります。それらの中には、ディオゴ・カン高等学校 (Liceu Diogo Cão)、アルトゥール・パイヴァ工商学校 (Escola Industrial e Comercial Artur Paiva)、1939年に設立された旧農業指導者学校であるチヴィンギロ農業研究所 (Instituto Agrícola de Tchivinguiro)、商業研究所 (Instituto Comercial) が含まれています。

紛争期間中にほとんど影響を受けなかったことの恩恵を受け、ルバンゴは今日、近代的でよく整備された都市となっています。長期にわたり、経済・教育の重要な拠点としての名声と評判を獲得し、国内最初の文学・教育学部が設立されるに至りました。国内で3番目に大きいホテル地区があり、観光が地域発展に非常に貢献しています。

地域特有の民族的で豊かな文化を背景に、林業、農業、畜産業が地元住民の主要な産業活動の分野となっています。これらは、花崗岩（装飾用岩石）の採掘産業とともに、輸出市場にとって強力な部門を担っています。ミネラルウォーター「アグア・ダ・シェラ（Água da Chela）」に関連する産業、飲料産業（ンゴラ [N`gola] やコカ・コーラ）、タバコ、乳製品、柑橘類、その他の小規模産業も忘れてはなりません。また2005年以降、ダイヤモンドの採掘とその権利の譲許に関連して、新たな産業発展の機会が生じています。

この地域の代表的な手工芸品は石や木といった素材を使用したものです。また絵画も芸術として非常に高く評価されています。この地域の市場、店、ホテルで興味深い芸術作品が見つかることでしょう。

8月にはノッサ・セニョーラ・ド・モンテ祭り (Festas da Nossa Sr.^a



do Monte) が開催されます。同月15日にはルバンゴ市の日が祝われ、数多くのレクリエーション、文化、スポーツ活動が行われます。

この州の観光には高い潜在力があり、風景、気候、植物、動物、娯楽、休養、文化、宗教など、独自の特徴を持つ多くの場所が、人々を惹きつける拠点となっています。特に、ウイラの滝の数々 (Quedas de água da Huíla) や、道が蛇行するレバ山脈 (Serra da Leba)、壮大な断崖のトゥンダヴァラ (Fenda da Tundavala)、アルト・ビンベの断崖 (Fenda do Alto Bimbe)、クリスト・レイ (Cristo Rei [キリスト像])、ノッサ・セニョーラ・ド・モンテ (Nossa Senhora do Monte)、バラコイス (Barracões)、ビクアル国立公園 (Parque Nacional do Bicuar)、ゲレンゲ・イ・ドンゴ森林保護区 (Reserva Florestal de Guelengue e Dongo)、ウングリア滝 (Cascata da Hungueria)、オンディンバ洞窟 (Gruta de Ondimba) などが、数ある観光地とともに魅力的な場所として挙げられます。



イコロ・イ・ベンゴ州 (ICOLO E BENGGO)

2024年8月24日に新たに設置された3つの州のうちの1つで、カテテ (Catete)、キッサマ (Quiçama)、カルンボ (Calumbo)、カビリ (Cabiri)、カーボ・レド (Cabo Ledo)、ボン・ジェズス (Bom Jesus) とセケレ (Sequele) の7つの自治体から構成されています。

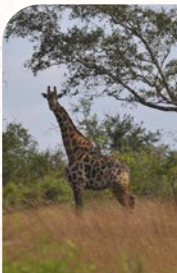
カテテを州都とするイコロ・イ・ベンゴ州は旧ルアンダ州の細分化によってできました。アンゴラの首都ルアンダ近くに位置するこの地域は、歴史的、文化的そして戦略的に重要な意味を持っています。

経済面では農業が中心で、特にキャッサバ、とうもろこし、マメ類、野菜類の生産が盛んです。またルアンダに近いという地理的利点が、都市部の市場への流通をスムーズにし、商業目的の農業活動の発展を促しています。

さらに、観光においてもイコロ・イ・ベンゴ州には期待が寄せられています。特に生物多様性の重要な保護区であるキッサマ国立公園 (Parque Nacional da Quiçama) ではエコツーリズムやサファリを楽しめ、類まれな美しさの数々のビーチを有するカーボ・レド地区には、サーフィン、カイトサーフィン、パラグライダーなど多彩なマリンスポーツが楽しめる観光資源が整っています。

前述した地理的利点に加え、道路や港などのインフラが整備されていることが、この州への投資誘致をより容易にしています。また、農業、漁業、工業そしてサービス業といった分野がこの州の経済成長を支える明るい未来を指し示しています。観光業では、カテテを筆頭とする多民族共存による文化的多様性が文化ツーリズムの発展においてさらなる魅力をくわえることでしょう。

このように、この州が持つ観光、経済における潜在能力と、戦略的に恵まれた地理条件により、イコロ・イ・ベンゴ州は、世界に名を知られる観光地として投資を誘致し、雇用の機会を生み出すアンゴラの開発原動力のひとつと言えるでしょう。あふれ出す自然と、豊かな文化、そして観光および交通の基盤となる現代的なインフラの整備の組み合わせがイコロ・イ・ベンゴ州を居住や投資の対象として人々を惹きつけることになるでしょう。近い将来に、この州は長期的に発展可能な現代都市としての条件を整え、アンゴラの経済成長をよりいっそう促進するでしょう。





ルアンダ州 (LUANDA)

ルアンダはアンゴラ共和国の首都で、アフリカ西海岸で最も美しく活気に満ちた都市の一つと考えられています。1575年1月25日にパウロ・ディアス・デ・ノヴァイス (Paulo Dias de Novais) によって設立され、当初はサン・パウロ・デ・ロアンダ (São Paulo de Loanda) と呼ばれていました。この州は沿岸地帯北部に位置し、首都の拠点であるインゴンボタス (Ingombotas)、カクアコ (Cacuaco)、ベラス (Belas)、



ヴィアナ (Viana)、カゼンガ (Cazenga)、キランバ・キアシ (Kilamba Kiayi)、タラトナ (Talatona)、ムスロ (Mussulo)、サンビザンガ (Sambizanga)、ランゲル (Rangel)、マイアングア (Maianga)、サンバ (Samba)、カママ (Camama)、ムレンヴォス (Mulenvos)、キランバ (Kilamba)、オジ・ヤ・エンダ (Hoji ya Henda) の16の自治体で構成されています。



ルアンダという名前は、カーボ島 (Ilha do Cabo) 出身の海の人々アシルアンダ (Axiluandas) が付けた漁網の名前「ロアンダ」に由来しています。

ルアンダ州はアンゴラで最も重要な場所であり、最も工業化が進み、最も人口密度が高く、最も外国投資を惹きつける能力が高い州です。近年、ホテル・観光部門は大きな発展を遂げ、人の流れがさらに活発になりました。現在、首都だけでなく全国すべての自治体で、医療および道路網の基礎インフラの改修、建設、近代化の工事が絶え間なく進められています。

ルアンダは大都市の中心部の特徴を全て備えています。ショッピングセンター、質の高いホテル地区、優れたレストランがあり、また年間を通じてマーケットや文化的なイベントが開催されています。

1月25日には、ルアンダ市祭りが、そして2月には、カーニバルが開催されます。カーニバルは市内全地区を巻き込む重要な文化イベントで、ルアンダ市のノヴァ・マルジナル (Nova Marginal) で行われます。11月末にはカーボ島でキアンダ祭り (Festas da Kianda) が開催されます。

マルジナル・デ・ルアンダ (Marginal de Luanda) の散策、軍事博物館 (Museu das Forças Armadas) として利用されているサン・ミゲル要塞 (Fortaleza de S. Miguel) からの眺め、新しく整備されたカーボ島や楽園のようなムスロ島 (Ilha do Mussulo) で過ごす一日は何物にも代えがたい経験です。ヴェアドス山 (Morro dos Veados) やバラ・ド・クワンザ (Barra do Cuanza) のカンポ・ドス・マンガイス (Campo dos Mangais) でのゴルフコンペ、キッサマ国立公園 (Parque Nacional da Quiçama) でサファリ、奴隷博物館 (Museu da Escravatura) や、ポルトガル語で「月の展望台」を意味する幻想的なミラドウロ・ダ・ルア (Miradouro da Lua) への訪問、カーボ・レド・ビーチ (Praia de Cabo Ledo) やサンガノ・ビーチ (Praia de Sangano) でのロブスター料理、そして市内に点在するナイトクラブで一日を終えるなど、多彩なアクティビティもお勧めします。





ルンダ・ノルテ州 (LUNDA NORTE)

この州はアンゴラ北東部に位置し、コンゴ民主共和国と国境を接しています。ルカパ (Lucapa)、シタト (Chitato)、カンブロ (Cambulo)、クイロ (Cuilo)、カウングラ (Caungula)、クアング (Cuango)、ルバロ (Lubalo)、カペンダ・カムレンバ (Capenda-Camulemba)、ロヴァ (Lóvua)、シャ・ムテバ (Xá Muteba) の10の自治体に分かれています。



ルンダ・ノルテ州の州都はドウンド (Dundo)です。この州は豊かな地下資源で有名で、1907 年以来、州の河川の渓谷にはダイヤモンドが存在することが確認されています。このような豊かな資源により、1912年には、アンゴラ鉱山調査会社 (Companhia de Pesquisas Mineiras de Angola) また、1917年にディアマング社 (Diamang) が設立されました。



戦争の間、ダイヤモンド採掘産業は、大規模で無秩序な商取引および違法業者たちによって深刻な打撃を受けました。近年、国家の安定により、ダイヤモンド産業が再



び繁栄するための信頼と、この産業に不可欠なルートが提供され、経済発展の大切な原動力となっています。

また、この州には非常に豊かな水系が網の目のように広がっており、多種多様な動植物が生息しています。

農業も地元経済において大切な役割を果たしています。地域を代表する料理であるキザカ (Kizaca [キャッサバの葉を刻んで煮込んだもの])、干し肉やそれらと一緒に提供されるフンジ (funge [キャッサバやトウモロコシをベースにした料理])、そのほか、マメ、キャッサバ、トウモロコシ、巨大キノコ、ピーナッツをベースにした料理などからも、農業の重要性が食文化に反映されていることがわかります。

この州は、木製の仮面、椅子やかご、その他の装飾的かつ実用的な家具などの手工芸品でも知られています。「ルンダ・キオコ (Lunda-quiocos)」は非常に豊かな民族集団で、チョクウェ (Cokwé) 美術として世界的にも知られている独自の木工芸術を発展させました。この芸術はアンゴラの国境を越え、高名な国際的美術館や、個人の重要なコレクションに収められています。「ルンダ・キオコ」は砂絵でも有名です。

アンゴラの言語の中で、ルンダ・ノルテ州で最も話されているのはチョクウェ語です。この州の女性たちは、赤土と植物性脂肪を使った手の込んだ髪型、美しさ、そして優雅さで広く知られています。

ドゥンド博物館 (Museu do Dundo) には、企画展と常設展のほか、彫刻や伝統芸術の学校が併設されています。また、ドゥンド博物館だけでなく、民族学博物館、バラ・バラ遺跡 (Estação de Bala Bala)、ルアコ遺跡 (Estação do Luaco)、州政府宮殿 (Palácio do Governo)、郵便局の建物にもぜひ足を運んでみてください。



ルンダ・スル州 (LUNDA SUL)

この州はアンゴラ北東部に位置し、コンゴ民主共和国と国境を接しています。行政上は州都のサウリモ (Saurimo)、ダラ (Dala)、ムコンダ (Muconda)、カコロ (Cacolo) の4つの自治体に分かれています。

隣接するルンダ・ノルテ州と同様、ルンダ・スル州もダイヤモンド採掘産業が主な産業です。この州には、高品質の宝石である「キンバーライト」の産出量で世界第4位のカトカ鉱山 (Mina Catoca) があります。20世紀初めに、最初のダイヤモンド採掘が、シパパ川 (Rio Chipapa) とその支流で行われました。このように、主な経済活動はダイヤモンド採掘ですが、一般的には農業と漁業が人々の生計手段となっています。



この州の住民は、ルンダ・チョクウェ族 (Lunda-Cokwé)、バンガラ族 (Bangalas)、シンジェ族 (Xinge)、ミヌンゴ族 (Minungos)、ルヴァレ族 (Luvalas)、ンブンダ族 (M´Bundas)、バルバ族 (Balubas) といった民族集団で構成されています。州民は非常に豊かな歴史的・文化的伝統を持っています。この州で最も話されている言語はチョクウェ語です。

ルンダ・スル州はエネルギーの自給を達成しています。シカパ川 (Rio Chicapa) のほとりに2基の水力発電所があり、これらが産業の発展だけでなく、農業や地域住民全体にも恩恵をもたらしています。

この州においても「ルンダ・キオコ (Lunda-quiocos)」はその知識を共有し、木彫り、砂絵、かご細工といった芸術作品にチョクウェ美術の痕跡を残しています。

この州は観光分野での発展の可能性を秘めており、現在その成長段階にあります。特にルアリ (Luari) 地域は、観光地としての優れた条件と高い潜在能力を備えています。ホテルネットワークは急速に拡大しており、4つの自治体にある観光複合施設、ホテル、ペンションなどから容易に宿泊施設を見つけることができます。サウリモ市祭りは3月28日に開催されます。





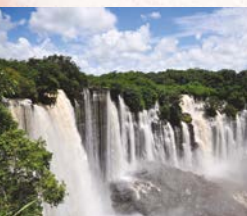
マランジェ州 (MALANJE)

この州はアンゴラの中北部に位置しています。行政上は、マランジェ (Malanje)、マサング (Massango)、マリンバ (Marimba)、カランドゥラ (Calandula)、カオンボ (Caombo)、クンダ・ディア・バゼ (Cunda Dia Baze)、カクゾ (Cacuso)、キワバ (Kiwaba)、ンゾジ (Nzaji)、ケラ (Quela)、ムカリ (Mucari)、カンガンダラ (Cangandala)、カンブンディ (Kambundi)、カテンボ (Katembo)、キリマ (Quirima)、ルケンボ

(Luquembo) の16の自治体に分かれています。州都マランジェは1932年2月13日に設立されました。



この州は、ゴム、綿花、ジャガイモ、サツマイモ、キャッサバ、米、タバコ栽培をはじめ、その他の野菜や果物など、商業用作物を中心とした農業が盛んな地域です。地理的に恵まれた位置にあるマランジェは、ルアングーマランジェ間を走る鉄道により、国内全土へ農作物を供給する穀倉地帯であり、流通の拠点と見なされています。また、地中にはダイヤモンド、リン鉱石、花崗岩、銅、ウラン、石灰岩、放射性鉱物が豊富に含まれています。多くの河川や小



川が絶えず流れ、地下水流も無数にあり、その上、湖や池も数多くあるため、水資源に恵まれています。

一方で、マランジェは、1909年に発見された、アンゴラのシンボルでもあるジャイアントセーブルアンテロープ (Hippotragus niger) によって国際的に知られています。ジャイアントセーブルアンテロープは大型のレイヨウで、体は黒色、角は頑丈で半円形をしています。唯一無二の美しさを持ち、アンゴラの中でもルアンド自然保護区 (Reserva Natural do Luando) とカンガンダラ国立公園 (Parque Nacional da Cangandala) にのみ生息する世界でも稀な動物で、厳重に保護されています。

マランジェ市では1月4日にバイシャ・デ・カサンジェ虐殺記念日 (Aniversário do massacre da Baixa de Kassange) があり、2月13日にマランジェ市祭り (Festas da cidade) が開催されます。太鼓の一種であるバトゥケ (batusques)、マリンバ、親指で弾いて演奏するキサンジェ (Kissange) は、伝統舞踊の伴奏に使われる地元の代表的な楽器です。

また、マランジェには、数多くの観光名所があります。壮大なカパンダダム (Barragem de Capanda)、荘厳なペドラス・ネグラス・デ・プンゴ・アンドンゴ (Pedras Negras de Pungo Andongo)、目を見張るような美しさのカランドゥラ滝 (Quedas de Água de Calandula) をはじめ、カンガンダラ国立公園 (Parque Nacional da Cangandala)、ベンボ国立公園 (Parque Nacional do Bembo)、ルアンド国立公園 (Parque Nacional do Luando)、サンバ・ルカラ森林保護区 (Reserva Florestal de Samba- -Lucala) などの自然保護区もあります。また、ムセレンジェ滝 (Cascatas de Musselenge)、フォス・ド・アモール (Foz do Amor)、モロ・デ・カバトゥキラ展望台 (Miradouro do Morro de Kabatuquila)、キペンバ湖 (Lagoa de Quipemba)、ザイレ川・クワンザ川流域 (Bacias Hidrográficas do Rio Zaire e Rio Cuanza)、カコロ洞窟 (Furnas do Cacolo) など、多くの魅力的な場所が訪れる人を惹きつけています。





モシコ州 (MOXICO)

アンゴラ北東部に位置し、コンゴ民主共和国、ザンビアと国境を接するモシコ州は、2024年8月まではアンゴラ最大の州でした。行政上は州都のルエナ (Luena)、カンガンバ (Cangamba)、ルンバラ・ンギンボ (Lumbala Nguimbo)、カマノンゲ (Camanongue)、レウア (Léua)、ルテンボ (Lutembo)、ルクセ (Lucusse)、カングンベ (Cangumbe)、シウメ (Chiúme)、アルト・クイト (Alto Cuito)、ニンダ (Ninda)、ルトウアイ (Lutuai) の12の自治体に分かれています。



乾燥した熱帯気候のもと、農業は住民にとって重要な収入源であり、特にサツマイモ、トウモロコシ、巨大キノコ、トウジンビエ、米、キャッサバ、ヒマワリ、柑橘類、そして野菜の生産に重点が置かれています。この地域のハチミツは、ムシシ (mussixi) やムヴカ (muvuca) などの木に咲く花から採取され、その医療効果において評判が高いです。林業では、特にユーカリとマツの植林が、さまざまな経済価値を生み出す可能性を示して

います。また、有名な湿地帯シャナス・ド・レステ (Chanas do Leste) がこの州の景観に特別な印象を与えています。この湿地帯にはアンゴラ特有のアンテロープであるパランカ (Palancas)、ヌー、ライオン、ゾウ、ガゼルやそのほか多種多様な動物が生息しています。

伝統的な料理には、とれたて、もしくは乾燥したキノコの料理、キャッサバベースの料理であるフンジ (funge)、キノコと干し肉の料理などが



あり、この地で収穫される豊かな作物が食文化に反映されていることがうかがえます。

州都ルエナを訪れる際には、平和記念碑 (Monumento à Paz) やレニネ庭園 (Jardim Lenine) に足を運ぶのを忘れないでください。レニネ庭園では、最高の郷土料理作りをめざし、数多くの伝統的なレストランと洗練されたモダンなレストランが競い合い、ここでしか味わえない最高の郷土料理を楽しむことができます。また州各地の市場では、素焼きの器、かご細工、彫刻、木工品といった手工芸品を購入することができます。



モシコ・レステ州 (MOXICO LESTE)

2024年8月に設置されたこの新しい州は、よりよい地域管理と住民の公的サービスの利用しやすさを目指し、広大なモシコ州を分割することで生まれました。州都のカゾンボ (Cazombo)、ルアカノ (Luacano)、カメイア (Cameia)、ルアウ (Luau)、ナナ・カンドゥンド (Nana Candundo)、マコンド (Macondo)、カイアンダ (Caianda)、ロヴウ

ア・ド・ザンベゼ (Lóvua do Zambeze) とラゴ・ディロロ (Lago Dilolo) の9つの自治体で構成されています。

モシコ・レステは鉱物などの豊かな自然資源に恵まれ、大いなる発展をもたらす潜在的な力を有しています。農業に欠かせない肥沃な土地もそのひとつです。この地域ではモシコ州と同様の農業のスタイルや、技術を共有しています。



この州の住民は多様な民族で構成され、それ自体が豊かな文化遺産を形成しています。住民たちそれぞれが、民族のアイデンティティを称える芸術活動、宗教儀式、そして伝統的な祭事を通して、自分たちのルーツと伝統を世代から世代へと受け継ぎ、守り続けています。

その一方でモシコ・レステ州の経済発展の可能性は採鉱業を始めあらゆる分野に広がっています。この州には、ダイヤモンド、銅、そのほか経済や産業、国防、テクノロジーの分野で重要な役割を果たす戦略的鉱物などの鉱物資源が豊富にあります。それらの鉱物の採掘が、雇用を増やし、政府や地域に利益をもたらすことで、この地域の経済を変革していくでしょう。

また、肥沃な土地と豊かな水資源により、この州の農業は国内消費と輸出用の食糧を生産し、飢えと貧困の問題を解決しうる魅力的な分野となっています。さらにクリーンで再生可能なエネルギーを生む力を秘めた豊かな水資源は、この地域の継続的な成長に貢献するでしょう。

自然の美しさ、豊かな生物多様性、モシコ・レステ州の文化遺産がこの州の観光分野に大きな力をもたらすことは言うまでもないでしょう。





ナミベ州 (NAMIBE)

ナミベ州はアンゴラの南部沿岸地域に位置し、州都のナミベ、ビバラ (Bibala)、カムクイオ (Camucuio)、ヴィレイ (Virei)、トンブワ (Tombwa) の5つの自治体で構成されています。

ナミベ州は類まれな自然の美しさに恵まれ、海、砂漠、サバンナが織りなす壮大な自然景観によって、アンゴラの中でも特別な州の一つとなっています。さらにアンゴラ沿岸地帯で最も良いコンディションと言われる気候と相まって、観光産業の発展に絶好の条件が揃っていると言えます。面積310,000km² を誇るナミブ砂漠 (Deserto do Namibe) は、内陸部および沿岸地帯の一部に広がり、ネイチャースポーツの愛好家に最も人気のある場所の一つです。

住民の主な経済活動は漁業です。ナミベ漁業地域はアンゴラで最も重要な漁業地域であり、全国漁業活動の65%以上を占めています。約480kmの海岸線を持ち、非常に多様な漁業資源に恵まれています。特に





巨大ガニを筆頭とした甲殻類と、ムール貝やアサリなどの貝類が豊富です。また、ナミベには、ルアンダ港、ロビト港に次ぐ、アンゴラで3番目に大きい商港があり、トンブワ市は州で最も大きい漁業の中心地となっています。近年では、農業、畜産業、産業も地域経済において重要な分野となってきています。

植物に関しては、世界でも珍しい希少種「ウェルウィッチア (Welwitschia Mirabilis)」が有名です。ナミブ砂漠の固有種であるこの植物は巨大なタコのようなエキゾチックな形状をしており、動植物の抵抗力和生命力の象徴となっています。

ヴィレイ自治体では、ユネスコ世界遺産の候補に挙がっている、チトゥンド・ウル (Tchitundo-Hulu) 地域とチポピロ (Tchipopilo) 地域にある岩壁画や岩刻画を見ることができます。この州を旅行する際には、アルコ湖 (Lagoa do Arco)、州政府宮殿 (Palácio do Governo)、マルジナル・ド・ナミベ (Marginal do Namibe)、キポラ礼拝堂 (Capela da Quipola)、サン・フェルナンド要塞 (Fortaleza de São Fernando)、ノッサ・セニョーラ・デ・ファティマ教会 (Igreja da N^a Sr^a. de Fátima)、サント・アドリアン教会 (Igreja de Santo Adrião)、ビバラにあるノッサ・セニョーラ・ド・ムンド教会 (Igreja da N^a Sr^a. do Mundo) とカパンゴンベ要塞 (Fortaleza do Kapangombe) などの数多くの名所にぜひ足を運んでみてください。また、1964年設立のイオナ国立公園 (Parque Nacional do Iona) と1957年設立のナミベ特別保護区 (Reserva Especial do Namibe) では、ダチョウ、クロサイ、ヤマシマウマ、ミーアキャットなどの動物達に出会うこともできます。さらに、バイーア・ドス・ティグレス (Baía dos Tigres)、カパンゲンベ洞窟 (Furnas do Kapangumbe)、アグアス湖 (Lagoa das Águas)、イナマンガンド湖 (Lagoa do Inamangando) など州内にはほかにも見どころが点在しています。



ウイジェ州 (UÍGE)



ウイジェ州はアンゴラ北部にあり、コンゴ民主共和国と国境を接しています。行政的には、マケラ・ド・ゾンボ (Maquela do Zombo)、キンベレ (Quimbele)、ダンバ (Damba)、ムカバ (Mucaba)、ブング (Bungo)、ベンベ (Bembe)、ソング (Songo)、ミルンガ (Milunga)、ブエンガス (Buengas)、サンザ・ポンボ

(Sanza Pombo)、アンブイラ (Ambuíla)、州都のウイジェ、ネガジェ (Negage)、プリ (Puri)、カンゴラ (Cangola)、キテシェ (Quitexe) の16の自治体に分かれています。

この州の地理的な位置から、商品やサービスの取引の多くは近隣諸国との間で行われています。一方で地理・生態学的条件が、農業、畜産業、林業、魚の養殖などの活動を活性化させています。農業では、コーヒー、キャッサバ、サツマイモ、マメ類、キマメ、バナナ、デンデヤシの栽培が、また、畜産業では、牛、山羊、豚、鳥類の飼育が行われています。魚の養殖は多くの湖で行われています。また川沿いでの伝統的手法の漁業も重要な活動となっています。この州の林業は、木材の伐採と、伐採された丸太の州内外への輸送を担っており、輸送された丸太は製材、加工されて用いられます。



この地域の典型的な料理は、鶏肉や魚のピリ辛煮込みのムアンバ (muambas) やイモムシを煮込んだり、炒めたりしたカタト (catatos) があります。これらは、トウモロコシもしくはキャッサバベースの料理であるフンジ (funge)、また野菜を添えて食べられます。伝統的な飲み物にはヤシの木の樹液から作られるマルヴォ (maruvo) があります。

地元の市場では、かご細工や装飾的な木製家具、椅子やソファなどのイグサ張りの家具、絵画といった魅力的な手工芸品が数多く販売されています。

この地域では、象、水牛、野生の豚、レイヨウ、アオザルのほか、様々な希少種の動物を見ることができます。河川においては、ザディ川 (Rio Zadi)、ダンジェ川 (Rio Dange)、ルリア川 (Rio Lúria)、ルカラ川 (Rio Lucala)、ルヴル川 (Rio Luvulu) がこの州の重要な川とみなされています。

この州で訪れるべき場所として、ペドラ・デ・ンジンガ・ンバンディ (Pedra de N'Zinga N'Bandi)、ペドラ・デ・カクラ・キマンガ (Pedra de Kacula Quimanga)、ペドラ・ド・トウンダ (Pedra do Tunda)、ベウ森林保護区 (Reserva Florestal do Beu)、コンゴ民族学博物館 (Museu Etnográfico do Congo) が挙げられます。さらに、希少種や固有種が見られる豊かな動植物相、アグーリャ・ド・ザララ (agulhas do Zalala) と呼ばれる岩、モロ・ド・アルト・カウアレ (Morro do Alto Cauale)、マサウ滝 (Quedas do Massau)、カムルンゴ滝 (Quedas de Camulungo)、広々としたサバンナの湖や川、花を咲かせるコーヒーの木々、そして、その木々と同じ名前の湖、豊かな山脈やサバンナ、ベンベ要塞跡 (ruínas da fortaleza do Bembe)、ウイジェ市の古いモニュメント、美しい村々、カバラ (Cabala) の岩壁画、砦、そして植民地時代の史跡も訪れる人を魅了することでしょう。



ザイレ州 (ZAIRE)

この州はアンゴラ北部に位置し、州都のンバンザ・コンゴ (M'Banza Congo)、クインバ (Cuimba)、ノキ (Noqui)、ンゼト (N'Zeto)、ソヨ (Soyo)、トンボコ (Tomboco) の6つの自治体から成り立っています。

ザイレ州は戦争の影響を強く受け、多くのインフラがまだ完全には復旧していない状態です。

この州にはソヨとンバンザ・コンゴという2つの重要な中心地があります。ソヨには、主要石油会社やアンゴラ初の液化ガスプラントであるアンゴラLNGが設置されています。州都であるンバンザ・コンゴは、かつて強大なコンゴ王国の本拠地でした。この王国は、ザイレ川の南北に広がる広大な地域を支配していました。また、1482年にポルトガル人航海士のディオゴ・カン (Diogo Cão) がザイレ川 (Rio Zaire) の河口であるポンタ・ド・パドラオン (Ponta do Padrão) に到着し、コンゴ王国と通商関係を結んだことで、この地はポルトガル人にとっての玄関口の役割を果たしました。こうした歴史的背景から、現在ンバンザ・コンゴ





はユネスコの世界文化遺産に登録されています。

1965年に始まった石油採掘はこの州の主要な経済活動であり、石油資源そのものはもちろんのこと、石油産業に関連するさまざまな設備、機器、技術などがもたらされています。一方で、地域住民は伝統的手法の漁業や自給的農業で生計を立てています。昔から、内陸部の農産食品の余剰分は沿岸部の産物、特に魚と交換されてきました。主な川はザイレ川とンブリッジ川 (Rio M'Bridge) です。

ソヨ空港、ンバンザ・コンゴ空港、および市場では、黒檀を用いた芸術的な手法による作品、彫像、かごなどの地元の手工芸品を購入することができます。

コンゴ王国の旧首都ンバンザ・コンゴでは、1491年にイエズス会の司祭達によってアンゴラに建てられたサハラ砂漠以南のアフリカにおける初のカトリック教会であるサン・サルヴァドール・ド・コンゴ大聖堂 (São Salvador do Congo) に足を運んでみてください。この教会はクルンビンビ教会 (Igreja Kulumbimbi) としても知られています。また、コンゴ国王博物館 (Museu dos Reis do Congo)、樹齢100年以上を誇る樹木ヤラ・ンクウ (Yala Nkuw)、大聖堂 (Sé Catedral)、州政府宮殿 (Palácio do Governo) とその庭園、ポルト・リコ (Porto Rico)、ポルト・ド・ピンダ (Porto do Pinda)、ンブリッジ川の滝なども見どころです。ソヨ市では、ポンタ・ド・パドラオン (Ponta do Padrão)、ペドラ・ド・フェイティソ (Pedra do Feitiço)、ザウ・エヴァ洞窟 (Cavernas do Zau Evua)、コンゴ川の河口、ブルル水路 (Canal Pululu)、キンブンバ水路 (Canal do Kimbumba)、ポブレス・ビーチ (Praia dos Pobres) やそれ以外の周辺のビーチにもぜひ立ち寄ってみてください。

お役立ち情報

政治制度 多党制民主主義

政体 共和制

国家元首

ジョアン・マヌエル・ゴンサルヴェス・
ロウレンソ 大統領

公式通貨 クワンザ

公用語 ポルトガル語

国際電話国番号 + 244

入国手続き

全ての非居住者は入国ビザ付きパスポートが必要

必須予防接種 黄熱病

独立記念日 11月11日



あなたのご意見をお待ちしております。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



ANGOLA
EXPO 2025
OSAKA JAPAN

より多くの教育、より良い健康。